

大阪ピクニック02「坂」

Osaka Picnic 02 'Hillsides'

2009年10月9日(金)、12日(月)、16日(金)の3日間、船場アートカフェの主催で『大阪ピクニック02「坂」』を開催した。舞踊家であり船場アートカフェのレジデンシャル・アーティストでもある佐久間新氏をナビゲーターに、大阪という都市をピクニックするように歩いてみることで、新たな「都市」の感じ方、楽しみ方を開発しようというワークショップである。身体に直接働きかける都市の要素として「坂」をテーマに設定し、感覚を研ぎ澄ませることでみえてくる都市と身体との関係性をあらためて考えることが目的だ。

本ワークショップは2009年3月に開催した第1回の続編で、前回行くことのできなかった天王寺から西成区・天下茶屋の範囲を歩くことにした。参加者は10名であったが、意欲的で多彩な方々が集まった。ワークショップ全体は3日間からなり、第1日は船場アートカフェでミーティングを行い、参加者各自の興味や体験などからコース設定を考え、道程で何に注目すべきかが話し合われた。2日目ピクニックの日で天王寺駅に集合し、まずは阿倍野区と西成区の区境界に沿って南に歩いた。境界に沿って崖に近い高低差が続くこのエリアでは、崖の上下をつなぐ急な階段を上ったり下ったりしながら南へ進む。崖の上下では視界の広がりはもちろん、風や肌を感じる空気の感触が大きく変化する。道程の中ほどでは標高14メートルの聖天山にある正圓寺で佐久間氏が石畳の階段を駆け落ちる(ダンスする)パフォーマンスを披露し、参加者は水の流れになったつもりで階段を下ってみた。本プロジェクトのテーマは「坂」であったが、坂に限らず参加者がそれぞれの感性で多くの魅力や面白みを発見し、参加者間で共有し合うことが試みられた。今回はサウンドアーティストの小島剛氏がゲスト参加したが、住宅街の静かな公

園では全員沈黙して街のサウンドスケープに耳を澄まし、高岡伸一(都市研究プラザ特任講師)は建築家の立場から古い建物の年代を特定するポイントを解説し、



正圓寺の階段で水の流れになる参加者

いを馳せてみることも行われた。全行程で4時間強のピクニックのなか、このようなワークショップが度々行われたのもまた、大きな収穫であった。

第3日は再び参加者が船場アートカフェに集い、船場アートカフェのディレクターである本間直樹氏(大阪大学コミュニケーションデザイン・センター准教授)が撮影した記録を観ながらピクニックを振り返り、今後の展開に向けて議論を深めた。大阪ピクニックはシリーズ化し、そこから得られた成果をメソッド集としてまとめる予定である。

■高岡伸一(都市研究プラザ特任講師)

Over three days on October 9 (Fri.), 12 (Mon.), and 16 (Fri.), 2009, the "Osaka Picnic 02 'Hillsides'" was held under the sponsorship of the Senba Art Cafe. With Mr. Sakuma Shin, who is both a dancer and Artist-in-Residence at the Senba Art Cafe, as navigator, this was a workshop attempting to develop ways of experiencing and enjoying 'the city' by walking through the city of Osaka as if on a picnic. Ten people participated, walking from Tennoji to Tengachaya over the course of about 4 hours, holding a number of workshops along the way on stairways and hillsides, in residential neighborhoods, and in parks, and they considered the relationship between the city and the body that becomes clear from immersing one's sensations in the experience.